

従業員と豊かな生活を送れる白ねぎ経営
～機械導入による規模拡大と労働環境の向上～

境港市

足立 大輔

はじめに

(これまでの歩み)

それまでは[■]をしていたが、[■]経費が高く、[■]では儲からなかった。そんな中で親方となる白ねぎ農家に出会い、白ねぎ作りが儲かると聞いた。儲からないが好きであった[■]をやめることに抵抗はあったが、白ねぎ農家になることを決断し、1年間白ネギの周年栽培を研修後、平成26年に新規就農した。就農後、就農条件整備事業を活用し機械や施設等の基盤を整備してスタートした。

就農1年目、ネギは細いし収量700~800箱/10aと低い中で、作業場は無く全て共選に出荷したなかなか所得はあがらなかった。ただでさえ少ない所得を従業員と半分にした。

就農2年目はまだ作型もつかみきれておらず手さぐり状態であったが、作業場でき、パートも雇用し個選出荷をした。少し白ネギの管理に手が回るようになってきた。就農3年目は月に10aほど管理できるようになった。反収は1000箱/10a程度になり、白ねぎ農家として自信がついてきた。

就農4年目は大きな転機があった。出荷先を変えたことだ。新しい出荷先では取引相手の顔が見えるため、自分の作った白ねぎを認識してもらえることに魅力を感じた。良いネギを作りたいと心から思い、改めて気合いが入った。就農5年目には栽培もコツをつかみ、従業員のおかげで順調に規模を拡大した。農園が順調に規模拡大できたのは従業員のおかげであり、従業員にはしっかり払い、福利厚生を充実してあげたいという思いが強くなった。

そして現在6年目は、作付け面積は2haとなり、軌道にのって来た。従業員も増え、農地も増えており、更なる規模拡大をすすめていきたいと従業員と意志を共有している。自分一人ではじめた農業だが、仲間(従業員)に支えられてここまで来た。

(現在の状況)

- ・現在は従業員2名+パート3名とともに2haを経営している。これ以上の規模拡大は現在所有する施設・機械では一回の作業時間を長くすることでしか達成できない状況である。
- ・従業員の労働負担軽減の配慮として、労働時間は1日約7時間とし、プライベートの時間もしっかり確保することで疲労が蓄積することを防ぎ、仕事を私生活の充実を図っている。
- ・現在の従業員への給与は(別紙1)のとおりで、鳥取県の年代別平均月収を下回っている(参考サイト: 年収 [style https://nensyu-style.com/195/](https://nensyu-style.com/195/))。今後は単位収量を向上しながら規模拡大をすることで、売上を確保する。税理士や普及所等関係機関に相談しながら経営力をさらに身に付け、従業員へしっかり給与を支給できる農園を経営したい。

(今後の目標と取り組み)

① 規模拡大・効率化

・これまでは[]の農地のみで営農してきましたが、[]は新規担い手の増加により借用できる農地が少なく、荒廃地も多い状況です。今後は規模拡大をすすめる中で[]に近い既耕地も借り入れながら、農地を確保します。規模拡大に伴い生産、収穫、出荷調製にかかる作業時間が増えるのを機械導入により対応します。

② 従業員の作業負担軽減

・現在の労働環境を維持しながら規模拡大するために機械導入し、効率よく白ねぎの生産を行う。
(高齢になっても元気に)
・従業員の労働時間

③ 従業員にしっかり給料を払う(年代別鳥取県の平均月収以上の給与を設定したい)

・人員を増やすのではなく機械化で規模拡大に対応(経費をけずる、雇用費3割)
・ねぎの所得をあげるために反収を向上させる。これまでの明渠排水に加えて、硬盤破碎による排水対策と緑肥の積極的な導入による連作回避や微生物資材の利用による土づくりを徹底させる。白ねぎが植わる土台からしっかり作る、反収1100箱/10アールを目指す。

今回のプランによる経営改善を通して上記の①～③の達成を目指す。

この目標の達成により儲かる、苦しいばかりでない、楽しい農業の実現することにつながる。そして農業の魅力を発信し、地域の農業の活性化に貢献する。また、白ねぎの管理能力と経営力を磨き、いずれは研修生を受け入れて次世代を育てていけるような農園となることで、この弓浜地域や鳥取県で農業を楽しむ仲間を増やすことにつなげたい。

(現状の課題と取り組み)

① 育苗

・現在所有している育苗ハウスでは約12反分の育苗トレイを配置することができる。プラン目標年には育苗のピーク時(年内収穫の秋冬ねぎと、年明け収穫の秋冬ねぎの育苗が重なる4月上旬～4月中旬)には20反分の育苗トレイを配置する必要がある。

➡新しく育苗ハウスを導入する。

② 定植

・今は周辺農家から定植機を借りて使用している。
・周辺農家の使用しない日に借りる予約をしても、悪天候等による定植遅れになることがある。品質の良いねぎ作りをするためには適切な時期に定植することが重要である。また、迅速に定植作業が出来れば全ての作業に対しても効率よく省力化をすることが可能である。移植機を導入して、さらに生産を高めていきたいと考えています。定植の適期からずれてしまうことがある。

➡移植機を導入して、適期の定植作業によるさらに生産を高めていく。

③ 溝掘り・土寄せ

・現在は管理機2台で土寄せ管理を行っている。現在の面積は2人で溝掘り・土寄せ作業をすることで対応できているが、目標年には栽培管理面積が2倍以上になるので外作業全員で同時に作業を行う計画である。

➡管理機一式を2台導入することで対応する。

④ 収穫

・現在の労働体制(収穫がある日)について

	外作業2名	外作業1名	パート
8:30~13:00	出荷調製作業	出荷調製作業	出荷調製作業
14:00~16:00	収穫作業	その他ほ場管理	—
16:00~17:00	その他ほ場管理・片づけ	その他ほ場管理	—

・収穫は週5日140箱分を収穫機を用いて2時間で行っている。

(火曜日と日曜日は出荷が無いため、月曜日と土曜日は収穫作業をしない)

・目標年には300箱以上を一日で収穫する計画であるため、収穫機1台では4時間以上かかり、その他の畑管理がおろそかになってしまう。

➡収穫機を1台導入し、2台の収穫機で収穫作業を行うことで以下の労働体制を目指す。

	外作業2名	外作業2名	パート
8:30~13:00	出荷調製作業	出荷調製作業	出荷調製作業
14:00~16:00	収穫作業	収穫作業	—
16:00~17:00	その他ほ場管理・片づけ	その他ほ場管理	—

⑤ 出荷調製

<根葉切り～箱詰めまでの処理能力について>

・現在は皮剥き2台と根は切り機1台で調製作業を行っている。

・現在の1日の出荷箱数は140箱で、8:30~13:00の4時間半で根切り～箱詰めを行っている。

・パートは主婦が多く、家事や子供の送り迎えなどで午前中のみの作業を希望している8:30~13:00の契約をしており、この労働時間の契約で継続雇用する予定である。

・目標年には約300箱/日进行处理する予定であるが、現在所有している機械のみでは4時間半で150箱が最大処理量であるため、現在の労働時間、労働スタイルの継続が困難である。

➡結束機、根葉切り機を、本プランを使用して導入させていただき、時間当たりの処理量を増やす。

<予冷>

・出荷先である■■■■からの依頼があり、一晩予冷して次の日に出荷するため、保冷库の使用は必須である。

・現在所有している保冷库では150箱のみしか収容できないが、目標年には300箱を収容したい。

➡保冷库を1台導入することで目標年の日量出荷箱数が収容できる。

<作業場>

・現在の作業場が狭く、根葉切り機等の機械を作業場の外に出して利用せざるを得ない状況であるため、猛暑の時や大風の時などに作業員にも白ねぎにも負担がかかってしまう（別紙2）。

➡作業場を増築し、より効率の良い調製作業ができる作業場のレイアウトにする。機械類の傷みが防げるように室内で管理する。作業場の資料は別添資料参照。

⑥ 反収をあげる

・XXXXXXXXXXで営農しており、ヘドロの多い土質で大型重機の連続した使用などにより硬い土質で硬盤もでき、排水が悪い。現在は排水対策は明きょ作っているくらいである。規模拡大をする中では場の収量性を低下させないように、以下の取り組みを行う。

➡XXXXXXXXXX担い手部会のサブソイラーを使用して硬盤破碎を行う。借用するサブソイラーを使用するために、34馬力のトラクターを導入する。

➡畑の物理性を良くすることと連作障害回避のために、白ねぎの作付け面積の1/2以上の緑肥を作付けし、持続可能な農業を行う。

➡XXXXXXXXXXでの白ネギ連作栽培をすすめる中で、微生物資材の利用を継続し、土壌中の微生物の多様性を高めるような土づくりを行う。

(1) 経営規模 (2018年)

品目	作型	面積 (a)	収穫時期
白ネギ	春ねぎ	10	3月
	春ねぎ	20	4～5月
	夏ねぎ (トンネル)	20	6月
	夏ねぎ	40	7月
	夏ねぎ	37	8～9月
	秋冬ねぎ年内	40	10～12月
	秋冬ねぎ年明け	40	1～2月
	合計	207	3～2台

(2) 労働力 (H30年1月～12月)

氏名	続柄・役職	作業分担	年間労働日数
足立 大輔	本人	全般	300日
XXXXXXXXXX	父	出荷作業	0日
XXXXXXXXXX	母	出荷作業	0日
従業員1	常雇用	全般	300日
従業員2	常雇用	全般	300日
従業員3	パート	出荷作業	180日
従業員4	パート	出荷作業	180日
従業員5	パート	出荷作業	180日

(3) 主な機械・施設の概要

機械・施設	活用	台数	能力	導入年度	備考
トラクター	耕耘	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX

管理機	畝上げ
管理機	畝上げ
育苗ハウス	育苗
育苗ハウス(中古)	育苗
作業小屋	出荷作業
皮剥機一式	調製作業
皮剥機一式	調製作業
動力噴霧器	防除
電動結束機	調製作業
電動結束機(中古)	調製作業
ネギ掘り取機	収穫
トリマー	育苗
根葉切り機	調整作業
保冷库	予冷
作業場増築	出荷作業
定植機	定植
トラクター	耕耘
管理機一式	畝上げ
保冷库	予冷
育苗ハウス	育苗
電動結束機	調整作業
ネギ掘り取り機	収穫
根葉切り機	調整作業

経営の目標

(1) 経営規模の目標 単位 (ha)

品目	作型	収穫期間	2018 実績	2019 1年目	2020 2年目	2021 3年目	2022 目標年
白ねぎ	春ねぎ	3月	0.1	0.2	0.3	0.3	0.4
	春ねぎ	4～5月	0.2	0.4	0.4	0.6	0.8
	夏ねぎ (トンネル)	6月	0.2	0.3	0.3	0.3	0.4
	夏ねぎ	7月	0.4	0.3	0.3	0.3	0.4
	夏ねぎ	8～9月	0.37	0.4	0.5	0.6	0.7
	秋冬ねぎ 年内	10～1 2月	0.4	0.8	1	1	1.1
	秋冬ねぎ 年明け	1～2月	0.4	0.6	0.7	0.9	0.9
	合計	3～2月	2.07	3.0	3.5	4	4.7

(2) 労働計画(日)

		就労 時間	作業 分担	2018 実績	2019 1年目	2020 2年目	2021 3年目	2022 4年目
足立大輔	本人	8-16時	全般	300	300	280	280	270
	父	8-13時	出荷作業	0	190	200	200	200
	母	8-13時	出荷作業	0	190	200	200	200
従業員1	常雇用	8-16時	全般	300	300	280	280	270
従業員2	常雇用	8-16時	全般	300	300	280	280	270
従業員3	常雇用	8-16時	全般	0	0	280	280	270
従業員4	パート	8-13時	出荷作業	180	190	200	210	215
従業員5	パート	8-13時	出荷作業	180	190	200	210	215
従業員6	パート	8-13時	出荷作業	180	190	200	210	215
従業員5名	パート	8-13時	出荷作業	0	0	年間2名ずつを目安に増員		

冬8～16時(12-13、10時から30分、)

夏6～18時(10時から30分、13-15、)7月下旬～8月いっぱい

今後の具体的な取り組みと役割分担

(1) 機械の導入計画

事業内容	事業費(千円)	2019	2020	2021	事業主体 関係機関
作業小屋(増築)	4,150	○			本プラン
定植機	1,400	○			本プラン
トラクター	4,800		○		本プラン
管理機一式	270		○		本プラン
保冷库	400		○		本プラン
育苗ハウス	1,500		○		本プラン
堀取り機	4,000			○	本プラン
電動結束機	280			○	本プラン
根葉切り機	700			○	本プラン
合計	18,100	5,550	6,970	4,980	

(別紙1)

2018年度支払給与実績

		就労 時間	作業 分担	2018 労働日数 実績	2018 支払い給与 実績(千円)	給与根拠
足立大輔	本人	8-16時	全般	300		
従業員1	常雇用	8-16時	全般	300		
従業員2	常雇用	8-16時	全般	300		
従業員4	パート	8-13時	出荷作業	180		
従業員5	パート	8-13時	出荷作業	180		
従業員6	パート	8-13時	出荷作業	180		
支払い給与(2018実績)合計						

※給与における+αは勤勉手当、通勤手当等

2022年度支払給与計画

		就労 時間	作業 分担	2022 労働日数 計画	2022 支払い給与 計画(千円)	給与根拠
足立大輔	本人	8-16時	全般	270		
	父	8-13時	出荷作業	200		
	母	8-13時	出荷作業	200		
従業員1	常雇用	8-16時	全般	270		
従業員2	常雇用	8-16時	全般	270		
従業員3	常雇用	8-16時	全般	270		
従業員4	パート	8-13時	出荷作業	215		
従業員5	パート	8-13時	出荷作業	215		
従業員6	パート	8-13時	出荷作業	215		
従業員5名	パート	8-13時	出荷作業			
支払い給与(2022計画)合計						

2019年5月10日現在鳥取県の賃金について

○鳥取県の年代別平均月収2017年 (参考サイト: 年収 styke <https://nensyu-style.com/195/>)

年代	平均月収
30～34歳男性	28.1万円
25～39歳男性	30.9万円
40～44歳男性	32.7万円

○鳥取県の最低賃金 762円

(参考資料: 厚生労働省 鳥取労働局 平成30年10月5日発行)